

第三者評価結果入力シート（母子生活支援施設）

種別	母子生活支援施設
----	----------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」

②評価調査者研修修了番号

SK2021180
2020-1-013
2019-1-031

③施設名等

名称：	ヴェインテ
施設長氏名：	児島 太郎
定員：	20 名
所在地(都道府県)：	京都府
所在地(市町村以下)：	京都市山科区大塚南溝町2 4 - 2
T E L：	075-583-6777
U R L：	http://www.veinte.jp/outline/
【施設の概要】	
開設年月日	2005/9/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 福朗
職員数 常勤職員：	13 名
職員数 非常勤職員：	4 名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	5 名
有資格職員の名称（イ）	母子指導員
上記有資格職員の人数：	4 名
有資格職員の名称（ウ）	調理師
上記有資格職員の人数：	2 名
有資格職員の名称（エ）	心理職員
上記有資格職員の人数：	2 名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	居室数 20室（バス、トイレ居室ごとにあり）
施設設備の概要（イ）設備等：	オール電化、冷暖房完備
施設設備の概要（ウ）：	緊急一時保護室 2室
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>○質の高い福祉支援・サービスを提供し、利用者やそのご家族の満足を得る支援を目指します。</p> <p>○地域とのかかわりを深めるとともに、地域社会の一員として地域福祉の向上に貢献し、地域に信頼され、支持される支援を目指します。</p> <p>○職員の育成に努め、全ての職員にとって、誇りと満足のある職場となるべく努めます。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・満18歳未満の児童のいる母子家庭、準母子家庭などが対象で、DV被害や生活困窮の様々な事情で生活や養育にお困りの方が安心して生活できる場所（部屋）を提供するサービスです。 ・緊急一時避難保護の場合は、母親単身での保護や妊婦の保護も可能です。 ・職員は24時間365日常駐しています。日々利用者さんの仕事や育児、健康、家族関係、将来の生活設計など、さまざまなお悩みのご相談を承っております。 ・施設には、母子支援員と児童指導員が配置されており、母子支援員が、利用者さんに寄り添い、利用者さんが退所後地域での安定した生活が送れるよう利用者の方々と一緒に、自立への計画を作り支援しています。 ・児童指導員が、施設内学童保育で子ども達と共に過ごしながら、子ども達の自立のための支援を行っています。 ・その他、施設には心理専門員が週に1回来ており、必要に応じて心理専門員によるカウンセリングを受けることが出来ます。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/12/1	
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/15	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度（和暦）	

⑦総評

社会福祉法人福朗が経営する「母子生活支援施設ヴェインテ」は平成17年に京都市山科区に開設されました。京都府内の同種の施設の中では歴史は浅いですが、地下鉄東野駅から徒歩圏内の住宅地の中にあり、母子にとって生活しやすい環境にあることから利用者は安定しており、ほぼ定員一杯の状態です。母子生活支援施設に加え、子育て支援短期利用事業、放課後等デイサービス事業、24時間対応の相談事業等、地域の福祉ニーズにこたえる事業展開をされています。母子生活支援施設は児童福祉法に位置づけられた事業であることから、利用者は子どもの成長によりいずれは退所されることとなりますが、将来を見据えて世帯の自立、そのための子育て支援や就労支援を職員が丁寧にサポートされていることが確認出来ました。退所された方が施設の近隣に退所後の居宅設定をされていることから、施設が利用者に望まれる支援をされていること、利用者との信頼関係が築けている事がわかりました。新型コロナ禍で施設の取り組みが制限されることが多かったと思いますが、その中でも工夫して取り組まれて来た地域と連携しての取組を引き続き展開され、母子のみならず多くの子育て世代にとって頼りになる法人、施設、事業所として発展されることを期待しています。

◇特に評価の高い点

Ⅱ-2-（3）-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。

質の高い支援には、職員の知識や経験に裏付けられた実践が重要であり、法人として職員の確保・育成に取り組まれる必要があります。ヴェインテでは「期待する職員像」を法人として明確にされており、それをもとに個人の目標設定、中間面談を新人職員に行われています。目標設定や振り返りについてはシートとして様式が定められており、仕組みが出来ていました。

また、職員には主任による個人スーパービジョンが毎月行われており、個々の職員が行っている支援の振り返りに限らず、幅広く職員の思いや悩みを聞き、アドバイスする場となっています。これは、支援の質の向上のみならず、職員の育成定着に非常に効果的であり、評価出来る取組です。

Ⅱ-4-（3）-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。

施設では、セカンドハーベストや京都フードセンターなどのフードバンクと連携し、地域の子育て世帯への食材提供を行っています。また、学習支援にも取り組まれています。地域社会の繋がりの希薄化に新型コロナ禍が拍車をかけ、ここ数年、子育て世帯は孤立化・孤独化するなど厳しい状況にあります。このような取組をきっかけに地域の福祉ニーズを把握し、その対策に向けた具体的な取組を更に進めるという良い循環が生まれています。24時間体制での相談事業も、本当に困ったときに頼りになる取組であり評価できます。その他、放課後等デイサービス事業は障害児の療育や居場所提供、保護者の子育ての悩みを受け止める場として地域の子育てニーズに答える役割を果たしています。今後も、地域の福祉ニーズを把握され、必要に応じて行政とともに対応・改善する取組を進められることに期待します。

◇改善を求められる点

今回の第三者評価では、前回、改善についてアドバイスした点については全て改善に向けて取り組まれている事が確認出来ました。より良い支援の実現に向けて、真摯に取り組まれています。支援の継続性の確保の点から、次の点について改善をご検討されてはいかがでしょうか。

Ⅲ-1-（5）-③ 災害時における母親と子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。

ヴェインテでは「火災・災害時対応マニュアル」が作成されており、毎月避難訓練を実施している。災害時の安否確認についてはLINEを活用するなど、実用的な対策が取られています。また、母親の会の役員なども避難訓練の時には積極的に参加されるなど、利用者も一緒になった安心・安全のための意欲的な取組が確認できました。また、京都市から福祉避難所に指定されている事もあり、備蓄物資の確保も適切です。しかしながら、災害の事業継続計画（BCP計画）の策定は未着手でした。水害等の自然災害は少ない地域ですが、大規模な地震の発生や感染症など、事業継続が困難な事態の発生が懸念される事もあり、早急にBCPの作成について組織的に検討されることをお勧めします。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

コロナの影響で、久しぶりに第三者評価を受診し、入所者や退所者への支援・地域支援の取り組み・前回からの改善点について、きちんと評価をして頂き施設や職員にとって良い機会となり、職員が取り組んできたことを評価頂くことで職員の自身に繋がっています。きちんと課題や改善点を的確に示して頂くことで、施設では中々気づかないことや確認振り返りができない内容を評価確認頂くことは、施設や職員の意識や考え方も柔軟になり施設にとって利用者への支援はもちろん運営面でも非常に役立っておりバージョンアップやアップデートできる機会になっております。今後も運営や利用者支援の向上に向けて取り組んで行き

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

法人中長期計画（H28年～33年）に改善すべき経営課題等をおかけ、役員間での共有や職員への周知をしている。請求業務や会計等の情報収集は職員が行い、公認会計士に委託している。施設設備の老朽化などについて、（コロナ禍で書面になるが）役員に報告している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

施設経営や運営の数年後の目標を記載した中・長期計画（28～33年度）を策定し、必要に応じて見直しを行っている。基本理念の実現に向けた計画になっており、単年度の事業計画とも連動している。※アドバイス事項として計画の実施年度を記載した年度スケジュールの明記が望まれます。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画（事業計画と収支予算）に、中・長期計画（中・長期の事業計画と中・長期の収支計画）の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

中長期計画の内容を踏まえて単年度計画が策定されている。全体の計画があり、さらに担当ごとに計画がある。単なる行事計画ではなく、支援の内容に踏み込んだ計画になっている。放課後等デイ等も計画を策定しており、概ね計画通り実施できている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。													
①	<table border="1"> <tr> <td>6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</td> <td>○</td> </tr> </table>	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a												
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○												
<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○												
<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○												
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○												
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○												
【コメント】													
<p>母子会議、児童会議、職員会議で検討して計画を策定している。職員からの意見も積極的に出されている。新年明けから事業計画策定を検討している。担当を決めて案を作成し、担当が策定した案を主任、施設長が確認をしている。職員会議で読み合わせをし、職員間の理解を深めている。また、年度末に単年度計画の振り返りを行い、次年度に反映させている</p>													
②	<table border="1"> <tr> <td>7 事業計画は、母親と子どもに周知され、理解を促している。</td> <td>a</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、母親と子どもに周知(配布、掲示、説明等)されている。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や母親会等で説明している。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、母親と子どもがより理解しやすいような工夫を行っている。</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 事業計画については、母親と子どもの参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。</td> <td>○</td> </tr> </table>	7 事業計画は、母親と子どもに周知され、理解を促している。	a	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、母親と子どもに周知(配布、掲示、説明等)されている。	○	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や母親会等で説明している。	○	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、母親と子どもがより理解しやすいような工夫を行っている。	○	<input type="checkbox"/> 事業計画については、母親と子どもの参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○		
7 事業計画は、母親と子どもに周知され、理解を促している。	a												
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、母親と子どもに周知(配布、掲示、説明等)されている。	○												
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や母親会等で説明している。	○												
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、母親と子どもがより理解しやすいような工夫を行っている。	○												
<input type="checkbox"/> 事業計画については、母親と子どもの参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○												
【コメント】													
<p>・計画の周知については母親自治会でわかりやすく説明している。年度末もしくは年度初めに決算と施設のルール見直しも含め、母親自治会の総会を開催し、説明している。子どもには子供会で報告している。</p>													

4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○
【コメント】		
支援の質向上に向けた取り組みとして、自立支援計画をPDCAに基づき母子と一緒に立てている。職員会議（毎月）と別に支援員全員が入る支援会議（年4回）がある。第三者評価も定期的に受診しており、自己評価は毎年実施している。評価結果を分析、改善に向けて取り組んでいる。外部講師による施設内研修の実施や、児童担当・母子担当職員がグループスーパービジョンを受ける取り組みなど、職員のスキルアップに向けて施設全体で取り組まれている。		
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○
【コメント】		
毎年、自己評価を行うとともに3年に1度、第三者評価を受診している。前回b評価の項目については、課題をみんなで協議し改善に向けて取り組んでいる。共有、改善の仕組みとしては各種会議で検討することとしている。		

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○
【コメント】		
施設長の役割や責任については、施設管理担当一覧、組織図にて明文化して職員に周知している。また、有事における施設長の役割と責任、不在時の権限委任等を明確にしている。施設長はいつも事務室におり、職員との連携が図れている。広報紙「ヴェインテだより」等に施設長として目指すものを年度初めに「あいさつ」として記載している。		

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者（取引事業者、行政関係者等）との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

法令理解の取り組みについては施設長も勉強会に参加している。（コンプライアンス研修を外部講師に依頼して実施している。研修資料確認）

職員への周知も研修を通じて実施している。事件等の報道記事を職員に回覧している。

法令は設備や労務などの関係についても把握している。社会保険労務士とも契約をしている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

・施設長は職員会議や個別支援計画の評価にも参加している。SVを受ける機会を週1回設けている。施設長は2005年の事業開始時はスタッフとして勤務、経験を積んで副施設長から施設長に就任した。児童養護施設での宿直勤務、母子生活支援施設での勤務経験もある。職員に対しても研修や他施設見学の機会をつくっている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

人事労務財務の分析を行い、働きやすい環境に配慮している。連休が取りやすいような配慮は以前から行っており、9連休の取得等配慮している。

事務のIT化など合理化については、記録はパソコンで記録し、会議や研修をZOOM活用など勧めている。以前はシステムを入れていたが、不具合が多く、今はワードで独自に様式を定めて記録している。各自1台パソコンがあり、記録はフォルダで管理し、ペーパレス化を推進している。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(社会的養護共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
<p>人材確保・育成の計画については 組織が職員に求める基本姿勢や専門性・専門資格を中・長期計画に明示して、それに基づく取り組みをしている。実習生や加算職員の確保から進めている。実習生をアルバイト雇用したり、非常勤から正規職員へ登用するなど効果的な人材確保を行っている。</p>		
②	<p>15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
<p><コメント></p> <p>総合的な人事管理は民間施設の「職員給与改善委員会」に入っている。(児童養護、職員の待遇改善)</p> <p>職員人事評価について、「改善委員会」の基準は職員に渡し、面談シート(自己評価、今後の取り組みビジョン、環境の良い面悪い面、コミュニケーション、体調管理等について記入するような様式になっている)をもとに施設長面談を実施している。(新任には年2回実施)毎年、年度初めに振り返り、目標スキルアップについて話している。ハラメント対策指針を整備している。</p>		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

労務管理は施設長と事務職員（元副施設長）で管理している。個別面談は年1回実施している。SVを毎月実施しており、支援の相談以外の事についても聞くようにしている。福利厚生は民間施設職員共済会に加入している。現在、1名が育休中で、男性も取得している。復帰後は宿直の回数を減らしたり、時短にするなど配慮している。ハラスメント対策指針が策定されており、相談窓口を明確化している。（施設長）全職員対象に外部講師を依頼してコンプライエンス研修は年1回所内研修を開催している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末（期末）面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

「期待する職員像（福朗職員の心得5か条）」は法人として明確にしており、それをもとに個人の目標設定、中間面談を新人職員に行っている。シートとして様式が定められており、仕組みが整備されている。個人スーパービジョンを毎月行い、個々の支援の振り返り等を行っている。中間面接だけではなく、毎月実施しており、支援に限らず、幅広く職員の思いを聞き、アドバイスする場となっており評価出来る取組である。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

期待する職員像は「福朗職員の心得5か条」と「倫理綱領」を作成し、わかりやすい言葉で書かれている。研修に関する資料を職員個々が持っていて、チェックするようになっている。支援会議で職員が受けたい研修の希望を出すことになっており、何が欠けていて、何を学ぶかを考える気負いとなっている。（乳幼児が多いので、新生児の沐浴、産後の声掛け等、乳児についての研修やDVについても被害者の方が多いため、DV研修を実施している。）状況に応じて必要なテーマを設定・見直しをしている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

全ての職員が年に3～4回、研修に参加出来るよう配慮している。キャリアパス研修も参加している。全母協等の研修にも参加している。個別的なOJTを実施している。スーパービジョンを丁寧に行っている。1年間（毎月1回）個人スーパービジョンを実施して、職員の強みを発見しよう意識している。それが、利用者の強み、職員の強みを意識した具体的な支援になっている。グループSV（週1回）も教育・研修の場となっている。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生の受け入れは積極的に行っている。(年間社会福祉士6名、保育士17名) 実習生受け入れについては方針を明文化し、マニュアルも作成されている。実習指導担当者講習会を受講している。児童福祉施設実習教育連絡会議・報告会等を通じて学校とは連携を図っている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

情報公開については事業計画、第三者評価(機構)、苦情等をホームページで公開している。利用者へはしおりに記載して周知している。また、苦情相談窓口は施設内に掲示している。広報紙ヴェインテたよりは関係機関等に配布している。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。

a

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○	

【コメント】

・経理規程を整備し会計のルールを定めるとともに職員に周知をしている。経理事務は外部委託、内部監査としては会計士が毎月を確認している。社会保険労務士とも契約しており、月1回相談や助言を受けている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 母親、子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や母親と子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の母親と子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(母子生活支援施設)	
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】 地域との関係についての考え方は理念や事業計画に明文化している。施設として町内会に加入している。入居者も一人一人会費を払っている。職員が窓口になり、イベント（運動会など）は家族で参加している。社会資源については「くらし」に地図を掲載し、病院等の情報を提供している。学童に近隣の子どもが参加しており、友達が会いに来る事もある。各部屋への入室は保護者が了解していればOKとしている。（親がいない場合は不可）		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して母親と子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【コメント】 学習支援などの学生ボランティア「さいもんめ」を以前から定期的に受け入れている。ボランティア受け入れの基本姿勢が示されており、マニュアルも整備済みでボランティア受け入れの際の説明等も行われている。地域の学校教育への協力については学校教員との交流（施設見学）がある。学校との連携は事業計画に明記している。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の母親と子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、母親と子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【コメント】 関係機関のリスト化については、パンフレットなどの情報をファイリングし、見やすくしている。また、京都市作成のパンフレットは職員各自が所有しており、業務に活用している。（ひとり親家庭支援パンフレット R4. 8）行政との定期的な連絡として、はぐくみ室とは月1回情報交換を実施している。要保護児童対策協議会にも参加している。また、京母協、改善委員会に参加している。ボランティアの方には「ボランティアの心得」を配布し、注意を明確化している。		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。 (社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	a
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

セカンドハーベストや京都フードバンクと連携して食材提供を実施しており、学習支援も行っている。無料法律相談は78件の実績あり、その他養育相談やDV相談も実施している。放課後デイもあり、地域の子育て世帯に周知されている。地域とのトラブルもなく、施設利用者が退所後は施設近隣の犬塚、音羽学区に住む方が多い。細く長いつきあいになるようにと思って支援している。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

食材提供、学習支援は地域貢献活動として事業計画に記載している。地域の活性化への取り組みとして、公園の清掃活動、危険個所の点検、町内会等に参加している。無料相談を24時間受ける体制を作っており、地域の方から相談がある。防災関係の取り組みについては、京都市と福祉避難所の協定を締結している。空き部屋を利用して受け入れることとしており、備蓄物資も整備している。

Ⅲ 適切な支援の実施

1 母親と子ども本位の支援

(1) 母親と子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 母親と子どもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、母親と子どもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもを尊重した支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
母親と子供を尊重した支援について事業計画の運営方針で明記している。また、「福朗職員の心得5か条」及び「倫理綱領」を作成している。 業務マニュアルを整備するとともに研修も実施している。市社協の人権研修に参加し、参加した職員から伝達研修をするようにしている。		
②	29 母親と子どものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの母親と子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、母親と子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもにプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>
【コメント】		
・プライバシー保護については倫理綱領に明記している。また、「個人情報取扱規定」にもプライバシー保護について規定されている。アドバイス事項として、マニュアルにも明記されることを期待します。		
(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 母親と子どもに対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の母親と子どもについては、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>
【コメント】		
パンフレットやしおりを活用してわかりやすく説明している。見学の際は職員が説明しているが、施設での暮らしのイメージが出来るようにわかりやすく説明している。資料は年1回見直ししており、施設内のルールも見直ししている。		

②	31 支援の開始・過程において母親と子どもにわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う支援について母親と子どもができるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、母親と子どもの同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な母親と子どもへの配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

支援の開始にあたっての説明は、ルビをつけたり、イラストを入れるなど工夫して丁寧に行うようにしており、必要に応じて説明を受けた同意書ももらっている。本人自身で判断出来ないような方への配慮もされている。施設の利用にあたっては、事前に施設を見学していただき、納得して入所決定となるようにしている。

③	32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として母親と子どもが相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、母親と子どもに対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

退所時には必要に応じてケースカンファレンスを行っている。支援が継続できるよう関係機関に引き継いでいる。引き継ぎ文書は児相と学校に渡している。退所時には母親にも子どもにも面談し、退所後の相談のしかたについて説明している。アフターケアとして、月1回集いを開催している。

(3) 母親と子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 母親と子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもへの個別の相談面接や聴取等が、母親と子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、母親と子どもの満足を把握する目的で、母親と子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、母親と子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

アンケートを毎年実施している。事業・行事もアンケートを取り、希望を聞きながら実施している。(母親リフレッシュ企画として陶芸や染め物など実施した。) また、自治会でアンケート結果を報告している。ルールの変更も自治会で協議している。

個別相談は母親だけでなく、子どもにも行っている。支援計画策定時にも聞いている。母親担当、子ども担当と二人担当がいるので、情報共有・相談して対応している。

(4) 母親と子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を母親と子どもに配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、母親と子どもが苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、母親と子どもに必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た母親と子どものプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決の体制について、施設内に掲示されている。子どもも含めて説明している。苦情を出しやすくする工夫としては、個別に担当職員が聞くようにしている、また聞く場所も部屋で聞くなど配慮している。文書よりも直接口頭で言われる事が多い。
内容は職員が記録するとともに対応をしている。自治会の総会で報告している。第三者機関まで行くような内容の場合は公表することになっている。

②	35 母親と子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、母親と子どもに周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

話を聞く環境として、相談室を利用したり、別室で対応したりしている。
喫茶、リフレッシュ会など接点を持つ場を作るようにし、雑談など話せる環境を保障するようにしている。喫茶は月2回開催しており、喫茶担当職員を決めて運営に関わっている。年4回のリフレッシュ企画は母だけで参加できるようにしており、その時は子どもは職員が見る。職員と母の交流の場となっている。

③	36 母親と子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の支援の実施において、母親と子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、母親と子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

意見や要望についての記録の書き方マニュアルを整備して、組織的に対応している。個別支援計画の時や総会、子供の時に聞き取ったり、アンケートを実施する中で意見や要望を聞き取っている。メールやLINEの利用もある。

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的の評価・見直しを行っている。	○
【コメント】 委員会を設置するとともに、「事故対応マニュアル」「リスクマネジメントに関するマニュアル」を整備している。(フロー図あり) ヒヤリハットの記録は各部署に回すようにされており、職員会議でヒヤリハットを報告する。(職員会議の議題に入れてある。) 救命救急の研修は年1回あり、その他に衛生面の研修、応急措置の研修もある。定期的に危険箇所のチェックを毎月実施している。(掃除の方にもチェックを依頼している。)しかし、リスクマネジメントに関する責任者の明確化が確認できなかった。		
②	38 感染症の予防や発生時における母親と子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
【コメント】 ・感染症マニュアル(感染症及び食中毒の予防及び蔓延防止対策マニュアル)を整備している。感染症対策委員会を今年度設置し、所内研修も実施されている。(委員会は年2回開催。研修は実技も含めて2回開催)		
③	39 災害時における母親と子どもの安全確保のための取組を組織的に 行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 母親と子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
【コメント】 災害時の対応体制を定めている。(自衛消防隊組織表)「火災・災害時対応マニュアル」を作成しており、毎月避難訓練を実施している。防災LINEがあり、安否確認や連絡に使用している。母親の連絡先は把握しており、外出される場合は確認している。 災害時の備蓄については、各家庭での備蓄に加え、施設としても備蓄品を準備している。災害時の福祉避難所に指定されている。しかし、BCP計画はまだ作成出来ていない。		

2 支援の質の確保

(1) 支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、母親と子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○
【コメント】		
業務マニュアルを整備している。日直業務及び祝祭日業務についてマニュアル化されている。職員への周知はOJTで行うが、新規採用職員には新人研修を行っている。また、話し合う場としてSVでも確認している。マニュアル一覧が作成されており、毎年4月1日現在を基準に見直しが行われている。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や母親と子どもからの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【コメント】		
・年1回見直すことにしており、職員会議で検討することとなっている。自立支援計画に連動するよう考えて職員の意見提案を反映するようにしている。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、母親と子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、母親と子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な支援が行われている。	○
【コメント】		
アセスメントを行い、計画に反映している。母親や子どもの意見も聞くようにしており、母親が書くシートもある。自立支援計画作成マニュアルがある。(母、子、乳幼児) 計画策定責任者は業務担当であり、最終は主任、施設長が確認する仕組みとなっている。振り返りシート、自立計画書は施設として統一した書式がある。作成した自立支援計画は措置元にも送るようにしている。また、支援困難ケースはエコマップを作成し関係機関と連携している。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、母親と子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

半年に1回、評価、見直しを行っている。緊急に変更する場合は関係機関と協議のうえで見直すこととしている。措置元の意見も踏まえて見直しを行っており、アセスメント面談に措置元の担当職員に来ていただくこともある。見直した計画は担当以外の職員にも回覧等で周知する。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 母親と子どもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

日々の記録については様式を定めており、支援記録マニュアルも定めている。母子日誌、児童日誌があり、支援目標に基づいた記録になっている。(宿直日誌もあり。)
記録は共有できるようにパソコン内のネットワークで保存しており、月1回プリントアウトしてファイリングするようにしている。記録の書き方のマニュアルがあり、マニュアルは年1回見直している。
業務日誌もあり、外泊者、各部屋の状況、登園時間等を記録している。

②	45 母親と子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、母親と子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	○

【コメント】

記録の管理については、文書保存規程が整備されており、保存、管理、持ち出し、廃棄について規定している。保存は5年としており、個人情報はシュレッダーで処理して廃棄する。持ち出しの禁止も規定している。保存データへのアクセスは権限設定して制限している。管理責任者は理事長としており、実務は主任が担当している。文書管理についての職員への研修はコンプライアンス研修で実施している。しかし、開示に関する規程が確認できなかった。

内容評価基準（25項目）

A-1 母親と子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 母親と子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 母親と子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、関係機関等と連携を図り対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの思想・信教の自由を保障している。	○
【コメント】		
母親と子どもの意向を踏まえ自立支援計画を策定している。規程、マニュアルも整備し、職員の理解にも努めている。具体的に検討する機会としては、施設内研修でのグループ討議や外部講師を招いた事例検討会を実施している。人権研修を受けた職員が伝達研修を行っている。権利侵害の防止の取組は、ヒヤリハットの記録の確認や虐待防止に係る職員セルフチェックの実施（年1回）を行っている。信教の自由は保障されているが、他の利用者への勧誘はしないように指導している。また、その他の営業活動も禁止している。		
(2) 権利侵害への対応		
①	A2 いかなる場合においても、職員等による暴力や脅かし、人格的辱め、心理的虐待、セクシャルハラスメントなどの不適切なかかわりが起こらないよう権利侵害を防止している。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定し、施設長が職員と利用者の双方に事実確認や原因の分析等を行うことや「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつくられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、具体的な例を示しながら、研修や話し合いを行い、職員による不適切なかかわりを行わないための支援技術を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの禁止を職員等に徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員からの暴力や言葉による脅かしなどの、不適切なかかわりが発生した場合に対応するためのマニュアル等を整備し、規程に基づいて厳正に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりや暴力を見たり聞いたりしたら、管理者等に報告することを義務付けている。	○
【コメント】		
虐待研修は年1回実施しており、虐待防止・対応マニュアルを整備している。職員セルフチェックの実施（年1回）し、職員の振り返りを行っている。不適切なかかわりがないよう管理者への報告を徹底している。ハラスメント防止については体制を整備して職員に通知している。罰則規定としては、就業規則上の規定がある。問題があれば、就業規則に従って処分することとなっている。		

②	A3 いかなる場合においても、母親や子どもが、暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切な行為を行わないよう徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切な行為の防止について、具体的な例を示して、母親と子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行為に迅速に対応できるように、母親と子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行為の防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことの確認や職員体制の点検と改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行為を伴わない人とのかかわりについて、母親や子どもに伝え、良好な人間関係の構築を図っている。	○

【コメント】

暴力は一切認めないと通知し、「ヴェインテのくらし」に掲載している。職員は母親や子どものサインを見逃さないように気を付けており、勉強会で子どもの権利について職員が説明するようにしている。母親がしんどいときは、職員に声をかけるよう伝えており、保育支援やショートステイを利用するようにしてもらっている。また、子どもにも困ったら職員に言うように伝えている。子ども会で子どもの権利について勉強会を行っている。

③	A4 子どもに対する暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりに迅速に対応できるように、子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識・具体的方法について学習する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを伴わない子育てについて母親に伝え、良好な親子関係の構築を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 常に親子関係の把握に努め、適切な助言や支援を行っている。	○

【コメント】

リスクが高い乳幼児は泣き声に注意するようにし、巡視の時（8時、9時、10時半等）に職員が積極的に声掛けをしている。母親の体調や表情が暗い等に気が付いたら個別面談を行っている。また、保育園での様子等も情報共有している。特性のある子どもについては、母親への対応が難しいため、（一緒に）検査に行こう、（特性が）わかって良かった、というような声かけ・対応を行っている。先手先手で対応できるよう気を付けている。

(3) 母親と子どもの意向や主体性の配慮

①	A5 母親や子どもが、自分たちの生活全般について自主的に考える活動（施設内の自治活動等）を推進し、施設における生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動（施設内の自治会活動等）を母親の理解のもとで実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが問題や課題について主体的に検討し、その上で取組、実行、評価するといった内容を含んだ活動を母親の理解と協力のもと実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 活動を通して、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう必要な支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親が自らの権利を学び、自主的に自分の生活を改善していく力を養えるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親の自治会活動等を通して、母親の自己表現力、自律性、責任感などに対する支援を行っている。	○

【コメント】

子ども会、母親自治会があり、役員は利用者に順番に貰うようにしている。運営は職員が準備するが、会長等が意見を出しそれを踏まえて行っている。全員参加が基本であり、体調不良で欠席される方には個別で意見をもらうようにしている。自治会活動で自己表現力が付くと感じており、役員経験等で責任を持つことができるようになってきている。避難訓練の時など、他の利用者に声掛けをしたり主体性がもてるようになってくる。子どもたちも作戦会議で意見を言うことにより自分の意見が通って嬉しかった、というような自信につながる経験をしている。

(4) 主体性を尊重した日常生活

①	A6 日常生活への支援は、母親や子どもの主体性を尊重して行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもの自尊心や強みを大切に支援を行い、自己肯定感が回復し高まるような支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに対してストレングスの視点に基づいて、エンパワメントしていく支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 常に母親と子どもの主体性を尊重した支援を通して、その人が力を発揮できるよう支援を行っている。	○

【コメント】

ストレングス、エンパワメントの視点を大事にしている。担当が信頼関係を作るように強みの視点を意識している。利用者は自己肯定感の低さや傷付き体験があるが、失敗しても良い、それを一緒に越えていくと伝えている。交換日記などの工夫もしている。

②	A7 行事などのプログラムは、母親や子どもが参画しやすいように工夫し、計画・実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもが施設での生活を楽しめるような企画を用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの主体的な参画を前提とした行事・プログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 母親向けのプログラムでは、母親が安心して参加し楽しめるように、保育などのサポートを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親や子どもの状況を考慮し、参加しやすいように内容・時間等を工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 行事等の実施後に、評価を行い次回の実施につなげている。	○

【コメント】

年間通じての行事計画を策定している。アンケートを実施して利用者の意見を踏まえて企画している。リフレッシュ企画では利用者が参加しやすいように保育を行ったり、喫茶で輪が広がって、そこから行事に参加するようになったりしている。一緒に買い物や役所に行くように配慮している。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A8 母親と子どもが安定した生活を送ることができるよう、退所後の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 退所後の支援が効果的に行われるよう、退所後の支援計画を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所した地域で安定して暮らすために、必要に応じて退所先の行政機関をはじめ、多様な地域の関係機関や団体とネットワークを形成し、母親と子どもが適切な支援が受けられるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も電話や来所によって施設に相談できることを母親と子どもに説明し、生活や子育て等の相談や施設機能を活用した(学童保育・学習支援・施設行事への招待等)支援を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後の生活が安定していることを確認するための往訪や架電等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて退所先に往訪し、介助や同行・代行等の支援を行っている。	○

【コメント】

退所後の支援としてアフターケアプランを策定している。退所後、転居先等に訪問し状況を把握し、困りごとの相談も受けている。ライン登録してもらっており、手続きや書類が苦手な方は来所や電話、メールでフォローしている。(アフターケアは半年を目安。)

今年度からアフターケア職員の加算が母子にも付くようになっている。(国家資格または実務経験5年以上)中学生以上の子どもが参加する退所後の集いは年1回実施しており交流の場になっている。また、学習支援は退所後の子どもも参加可としている。

A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本		第三者 評価結果
①	A9 母親と子どもそれぞれの個別の課題に対応して、専門的支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもがそれぞれ抱える個別の課題に対して、目的や目標を明確にし計画的で一貫した専門的支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの課題を正しく理解し、親子・家庭のあり方を重視した支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが、自己の意思で課題を解決できるように個々の気持ちに寄り添った支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 資料等を使いながら、必要な手続きをわかりやすく説明し、必要に応じて職員が機関等への同行及び代弁を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門的な支援を行うために、その支援に必要な資格や経験等を考慮した職員を配置し、職員間で連携・協議を行っている。	○
【コメント】		
担当者を母親、子どもそれぞれに配置している。本人の意思で解決できるよう個別支援計画を策定し、気持ちに寄り添った支援を行っている。また専門的な支援として臨床心理士による支援も行っている。		
(2) 入所初期の支援		
①	A10 入所に当たり、母親と子どもそれぞれのアセスメントに基づき、生活課題・ニーズを把握し、生活や精神的な安定に向けた支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 入所直後は心理的に不安になりやすいため、信頼関係の構築に心がけ、心の安定に向けた相談支援に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが安心して施設を利用し、課題の解決に向かえるように、関係機関等と連携して情報提供に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが保育所・学校に速やかに入所・通学できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、生活用具・家財道具等の貸し出しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 居室は、母親と子どもが生活するために必要な十分なスペースが確保され、プライバシーに配慮したものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 身体に障害のある母親や子どもに対しても、安全に生活ができるように配慮している。	○
【コメント】		
入所時に施設での生活がスムーズにいくように生活用具を貸し出しを行っているが、半年を目途に自分で用意できるようにサポートしている。職員は子どもの学校や役所関係等の手続きに同行する場合がある。子どもには学童での居場所など心地よい居場所を提供できるように考えている。特定妊婦の受け入れもあり、チューブでミルクを飲ませる必要がある乳児も受け入れたことがある。		
(3) 母親への日常生活支援		
①	A11 母親が、安定した家庭生活を営むために必要な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 生活経験に乏しい母親には、職員と共に行うことで経験を補う等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心やからだの健康に不安を持つ母親には、相談に応じたり、医療機関への受診を促したりするとともに、栄養管理等の食生活への支援を行うなど、ニーズに応じた健康管理のための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、衣服の清潔保持や入浴など、気持ちよく暮らすために必要な衛生面への支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 経済的に安定した生活を送るために、必要に応じて家計の管理、将来に向けた貯蓄等の相談や支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 支援の必要性やニーズに応じて、家事・育児等、日常生活全般について、代行や介助等の支援を行っている。	○
【コメント】		
本人の生活スキルを踏まえて支援している。掃除が出来ず、居室が足の踏み場がない状態の方へ週1回掃除の日を作ったり料理を一緒に作るなどの支援も行っている。赤ちゃんの皮膚疾患への対応も行っている。家計管理、金銭管理については要望があれば支援することとしている。コロナ等体調不良時は代行することもある。		

②	A12 母親の子育てのニーズに対応するとともに、子どもとの適切なかわりができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親の育児に関する不安や悩み等の発見に努め、その軽減に向けた相談や助言、介助等を行うとともに、必要に応じて保育の提供や保育所へつなぐ等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親の状況に応じ、子どもの保育所・学校等への送迎の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親が子どもを客観的に理解できるように、発達段階や発達課題について示し、適切な子育てやかかわりについてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 虐待や不適切なかかわりを発見した時は職員が介入し、必要に応じて専門機関との連携を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、子どもが通う保育所や学校と連携している。	○

【コメント】

子どもとの距離が難しい方、虐待体験があったり、自己肯定感が低い方など、アセスメント時に把握した情報を踏まえ、必要に応じて保育所やショートステイにつないでいる。一旦母子分離になった方もいたが今はない。子どもの発達課題があり、言葉で伝わらず暴言になるなど、困った事は職員に言うように促し、対応を一緒に考えるようにしている。ネグレクト（学校に行かせない等）もあり、学校や児童相談所とも連携して対応している。

③	A13 母親が安定した対人関係を築くための支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親が職員とつながっていることを実感できるよう、様々な場面で気軽に声をかけたり、相談に応じるなどの取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を自分の居場所として感じられるように、母親どうしが集うための機会や場を設け、交流を促すなどなど、関係づくりのための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 対人関係がうまくできない母親には、母親のペースに合わせた関係性の構築に配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 社会との関係をとることに難しさから対人関係にストレスを生じている場合は、そのストレスの軽減が図られるよう、心理療法を行ったり相談に応じたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内の他の母親や子どもとの間でトラブルが生じたときに、その関係性を修復もしくは改善するための支援を行っている。	○

【コメント】

日々の声掛けはタイミングを見て行うようにしている。夜眠れない、というような場合はカウンセリングやクリニックにつないでいる。本人から言ってもらえることが大事であると考えており、行事も大きな役割を果たしている。臨床心理士（週1）を配置しており、心理療法を受けている人が多い。利用者間のトラブルには介入している。

(4) 子どもへの支援

①	A14 健やかな子どもの育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの成長段階、発達段階に応じた養育支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 放課後の子どもの生活の安定や活動を保障し、活動場所、プログラム等を用意するとともに、日常生活上必要な知識や技術の伝達、遊びや行事等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> DVを目撃した子どもを含め、被虐待児等や発達障害を含む様々な障害等の特別な配慮が必要な子どもに対しては、必要に応じて個別に対応し、子どもの状況に応じた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親のニーズや状況に応じて、施設内の保育支援や保育所への送迎、通院の付き添いなどの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内における養育・保育に関する記録を整備し、支援に役立てている。	○

【コメント】

学童保育、施設内保育を実施している。被虐待児だけでなく、子ども全員に個別対応の時間があり、話をゆっくり聞くようにしている。記録は「保育」という項目に入れて保育の記録を別枠で入れるようにしている。内容は母親にも報告し、アセスメントにもつなげている。必要に応じて保育園の送迎や通院の付き添いも行っている。

②	A15 子どもが自立に必要な力を身につけるために、学習や進路、悩み等への相談支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 落ち着いて学習に取り組める環境を整え、年齢に応じた適切な学習支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学習の習慣を身につけるとともに、学習への動機づけを図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進学や就職への支援について、母親と子ども双方の意向をくみ取り、学校と連携して情報提供を行いながら、具体的な目標を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 学費の負担軽減のため、各種の奨学金や授業料の減免制度等の活用への支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学習指導のために学習ボランティア等の協力を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人一人の個性を重視した相談・支援を行っている。	○

【コメント】

年齢に応じた学習支援を行っており、学習支援などの学生ボランティア「さいもんめ」を受け入れている。静かな環境で勉強ができるよう個室も確保している。学童保育中に宿題の時間があり、つまずいた所は宿題以外にプリントを活用して勉強している。進学、就職の支援については、助成金や貸付金にかかる情報提供を行っている。児童養護の児童には支援制度が手厚くなったが、母子世帯の児童の大学や専門学校への進学は厳しいため、奨学金や免除制度の紹介をしている。

③	A16 子どもに安らぎと心地よさを与えられるおとなのかかわりや、子どもどうしのつきあいに配慮して、人との関係づくりについて支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 母親以外のおとなにも受け入れられたり、甘えられたりする経験を増やし、おとなとの信頼関係が構築できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアや実習生など、様々なおとなとの出会いの機会を設け、多様な価値観、生き方への理解をすすめている。	○
	<input type="checkbox"/> 悪意や暴力のないおとなモデルを提供することで、おとなに信頼感を持てるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 自分の気持ちをことばで適切に表現し相手に伝えることについて、日常生活の中でその方法を意識的に伝え、その能力が向上するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 専門的なプログラムに基づいたグループワークを積極的に取り入れている。	○

【コメント】

・大人との関りとしては施設職員以外に実習生やさいもんめグループの大学生との交流がある。学童保育やキャンプ活動を通じて自分の気持ちを表現し、相手に伝えることができるように支援をしている。

④	A17 子どもの年齢・発達段階に応じて、性についての正しい知識を得る機会を設け、思いやりの心を育む支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に正確な知識を持って応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で性教育に関する知識や、性についてのあり方などの学習会を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育の計画があり、正しい性知識を得る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

性についての学習として実施しているのは、プライベートゾーンや意思についての学習で作戦会議の時間におこなっている。年齢に応じた対応を考えている。中学生の男の子のお風呂等、母親から職員に関わり方の相談がある事もある。性教育マニュアルを整備するとともに書籍も用意している。徐々に取組を進めたいと考えている。

(5) DV被害からの回避・回復

①	A18 母親と子どもの緊急利用に適切に対応する体制を整備している。	a
	<input type="checkbox"/> 緊急時に備えて、夜間でも対応できる体制を構築している。	○
	<input type="checkbox"/> 24時間の受け入れや広域利用など、広く母親と子どもの緊急利用を受け入れている。	○
	<input type="checkbox"/> 役割分担と責任の所在を明確にし、配偶者暴力相談支援センター・警察署・福祉事務所等との連絡調整体制を整えている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急時対応マニュアルを作成・整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急利用のための生活用品等を予め用意している。	○

【コメント】

DV被害世帯等の緊急利用として一時保護受け入れをしている。京都府家庭支援総合センター、京都市のはぐくみ室、配偶者暴力相談センター等と連携して24時間受入や広域利用などへ対応している。対応マニュアルも整備し、生活用品や衣類も一式を準備している。

②	A19 母親と子どもの安全確保のために、DV防止法に基づく保護命令や支援措置が必要な場合は、適切な情報提供と支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 保護命令制度や支援措置・DV相談証明の活用について、情報提供を行うとともに、必要に応じて法的手続きのための同行等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 弁護士や法テラスの紹介や調停・裁判などへの同行等、さらに必要に応じて代弁等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> DV加害者に居所が知れ、危険が及ぶ可能性がある場合には、母親と子どもの意向を確認した上で、速やかに関係機関と連携し、保護命令の手続きや他の施設への転居等の支援を行っている。	○

【コメント】

DV対応を実施しており、弁護士や法テラスの紹介、必要な情報提供、必要に応じ同行や書類作成も支援をしている。最近は無いが、夫等に居所が知れたりした場合は、他の施設（野菊荘等）に変更するなど利用者の安全のために対応することもあった。

③	A20 心理的ケア等を実施し、DVの影響からの回復を支援している。	a
	<input type="checkbox"/> DVについての正しい情報と知識を提供し、DV被害者の理解を促し、自己肯定感を回復するための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> DVから脱出することができたことを評価し、安心し安定した生活と幸せな未来について、職員と一緒に考え支援することを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を活用し、医師やカウンセラーと情報交換を行いながら、より適切な支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、自助グループや外部の支援団体等の紹介を行っている。	○

【コメント】

心理的ケアは、臨床心理士が対応している。男女共同参画センターで研修が開催されるので、情報が来たら利用者に紹介するようにしている。その他、DV被害者の会もある。地域のカウンセラーや精神科医、クリニックとも連携しており、自助グループ等の情報があれば利用者に紹介している。

(6) 子どもの虐待状況への対応

①	A21 被虐待児に対しては虐待に関する専門性を持ってかわり、虐待体験からの回復を支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 暴力によらないコミュニケーションを用いるおとなのモデルを職員が示している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと個別に関わる機会を作り、職員に自分の思いや気持ちを話せる時間を作っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であることを伝えることや、感情表現を大切にすることで、自己肯定感や自尊心の形成に向けた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 医療機関や児童相談所などの関係機関と必要な情報の交換を行いながら、より適切な支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法担当職員によるカウンセリング等の専門的ケアを実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 被虐待児に対する支援の専門性を高めるための職員研修等を行っている。	○

【コメント】

子どもと個別にかかわりを持ち、安心感、信頼感を作っていくようにしている。関係機関とも連携している。具体的な支援では臨床心理士によるプレイセラピーなどを行っている。職員は外部研修に参加し、専門性を高める他、ケース検討会議を毎月実施している。

(7) 家族関係への支援

①	A22 母親や子どもの家族関係の悩みや不安に対する相談・支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親の家族関係の悩みや不安を受け止め、相談に応じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの家族関係の悩みや不安を受け止め、相談に応じている。	○
	<input type="checkbox"/> 家族の中に感情の行き違いや意見の相違がある場合、適切に介入し調整を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、他の親族との関係調整を行っている。	○

【コメント】

母子担当と子ども担当を決めており、それぞれの課題・不安を聞き、支援会議やケース検討で情報を出し合ってアプローチを決めている。SWの理論の学習も進めている。ファミリーソーシャルワークとして、役割分担して関わっている。きょうだい間や他の親族との関係調整を行うことがある。

(8) 特別な配慮が必要な母親、子どもへの支援

①	A23 障害や精神疾患、その他の配慮が必要な母親と子どもに対する支援を適切に行い、必要に応じて関係機関と連携している。	a
	<input type="checkbox"/> 社会資源の積極的な活用をするための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 公的機関や就労先、保育所や学校等と連携した支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 精神疾患があり、心身状況に特別な配慮が必要な場合、同意を得て主治医との連携のもと、通院同行、服薬管理等の療養に関する支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害や精神疾患がある場合や外国人の母親や子どもへは、必要に応じて公的機関、就労先への各種手続きの支援を行ったり、保育所、学校等、他機関と連携し情報やコミュニケーション確保の支援を行っている。	○

【コメント】

就労継続支援B型事業所を利用されている方もある。クリニックのドクターや行政の障害のある方の窓口とも連携している。通院同行や服薬管理をしている母親、子どももいる。毎日飲みに降りてきてもらう（ドクターの指示による、オーバードーズがある方もいる）

(9) 就労支援

①	A24 母親の職業能力開発や就労支援を適切に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 母親の心身の状況や能力・適性・経験・希望に配慮した支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 資格取得や能力開発のための情報提供や支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 公共職業安定所以外にも、パートバンクや母子家庭等就業・自立支援センター等、様々な機関との連携や調整、必要に応じて、同行や職場開拓等の支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親が安心して就労できるように補完保育（残業や休日出勤時の保育等）、病後児保育、学童保育などを行っている。	○

【コメント】

入所時は安定を優先するが、アセスメント面談で就労の話が本人から出たら検討していくこととしている。クリニックや生活保護ケースワーカーと連携する中で支援をしている。ハローワークへの同行、生活保護での就労支援がある。就労中でも気持ちが折れていく方のフォローもおこなっている。就職活動時は保育支援している。資格取得としては、MOS資格を通信で目指す方がいる。部屋の提供やパソコン貸し出しなど支援している。スーパーやヘルパー、飲食業など、施設の近隣で就職される方もある。

②	A25 就労継続が困難な母親への支援を行い、必要に応じて職場等との関係調整を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 職場環境、人間関係に関する相談や助言など、個々に対応した幅広い支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 母親が望む場合、就労継続のために職場との関係調整を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害がある場合や外国人の母親の場合、その心身等の状態や意向に配慮しながら、就労の継続に向けての支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 就労継続が困難な母親を積極的に受け入れている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて福祉的就労の活用を図っている。	○

【コメント】

就労継続が困難な人が多く、人間関係や叱られたなどの理由で、退職してしまっている。就労支援の専門機関に相談することもあり、施設では気持ちが切れないように、その日のうちに気持ちを吐き出すようにサポートしている。福祉的就労の方もいる。人間関係に能力的なものも関係することがあり、措置元に話して検査を受け、手帳取得する場合もある。利用者間の関係性も難しい面がある。ネイルをされている方があり、居室に入っていたが、近寄りすぎて問題になった例もある。